



たかはし ひろゆき
高橋 浩之 議員

問 自然、歴史、文化、人とのつながりなど田舎ならではの価値をどのように保存し、観光資源として活用していくのか。

答 観光資源は各地区への行政事務委託や指定管理を通じて自然や文化の保全に取り組み、文化的保存については、イベントの実施や交流体験をする機会を設け、文化の継承につなげている。

問 七ヶ宿町の自然、歴史、文化を観光資源に
答 地域資源の魅力を発信し、次世代につなぎたい

問 町の歴史は人口減少により語り継ぐ人が少なくなれば、その価値が失われる懸念がある。先月の議会だよりで紹介した「七ヶ宿金山の歴史」のよ
答 交流人口や関係人口の拡大は、行政や一部の観光事業者だけでは関係人口の拡大を図ることはできない。町民全体で来訪者を迎える事により町の魅力が一段と高まるのではないかと。そのためには、文化財保護委員会などを中心に、町民が歴史や文化を学ぶ機会を設け、七ヶ宿の魅



▲湯原の古民家より発見された「七ヶ宿金山の絵図」

力への理解を深めることが、地域の魅力向上と交流人口拡大につながると考える。

問 「水と歴史の館」や他の観光施設などの来訪者数以外にどのような指標で観光施策の成果を検証しているのか。またリピーター確保を含め今後どのような観光の方向性を目指していくのか。

答 観光客の入れ込み数以外については、イベント参加者アンケートやSNS投稿の投稿数を検証している。今後は七ヶ宿ダムを中心に関係人口、交流人口の拡大に向けて取り組んでいくほか、国内外の観光客の誘客促進するため観光看板やパンフレットなどの多言語対応の整備に努めていく。

問 長年町政に携わってこられた町長が考える七ヶ宿町最大の魅力とは何か。また、その魅力を次世代へどのように残すべきと考えるか。

答 町の最大の魅力は、町民の温かく穏やかな人柄と豊かな自然・風土にあると考えます。町民、議会、行政が力を合わせ、地域資源の魅力を発信しながら、多くの人に愛される七ヶ宿町を次世代へつなぐことが重要と考える。



▲観光客の誘致につながる七ヶ宿の大自然

【自己チェック】
今回の質問では、自然・歴史・文化を生かした観光の考え方や、水と歴史の館の活用、観光施策の成果検証について確認した。しかし答弁は取組説明が中心で、具体的な成果や地域経済への効果、リピーター増加との関係は十分見えなかった。今後も効果検証や地域への波及効果を注視し、七ヶ宿らしい観光のあり方を引き続き考えていきたい。

問 水源の町として不法投棄の問題をどう考えるか
答 町や他の組織機関と共に不法投棄ごみ問題に取り組む

問 昨年、不法投棄禁止看板を設置したエリアに、いまだにシートやビニール類・肥料袋などのごみが散乱している。早急な回収や環境改善に向けてどのように対応するのか。

答 現場は急勾配の崖下であり、作業時の安全確保の観点から直ちに回収するのは困難である。今後は河川管理者の大河原土木事務所と連携し、不法投棄防止対策連絡協

議会で回収方法など検討する。

問 以前にもこの付近で大量の不法投棄があり回収されたことがあった。幹線道路から近い為、投棄しやすい場所と考えられる。監視カメラ設置など、更なる対策が必要ではないか。



▲ゴミの不法投棄

答 現場付近に昨年、不法投棄防止のための看板を設置した。監視カメラの必要性や、他の防止策については、看板の抑止効果を踏まえて判断したい。

問 現場は回収困難な場所であることは理解しますが、放置すれば新たに不法投棄を招く恐れがある。安全対策を講じたうえで回収すべきと考えるか。

答 七ヶ宿町廃棄物不法投棄防止対策連絡協議会は警察署、森林管理署、土木事務所、保健所、ダム管理所、町などで構成され、毎年十一月に不法投棄ゴミ回収を行っている。危険箇所回収の判断は、協議会の中で行っている。作業員が危険と判断された際には回収は困難である。



▲崖下の不法投棄

【自己チェック】
県内一のダムを抱え、183万人の水がめとして七ヶ宿の自然環境はみんなで守らなければならない。投棄されたゴミ類を片付けないとまたそこに捨てられると思われることから質問をした。不法投棄防止対策連絡協議会の今後の取り組みを注視したい。



よしだ おさむ
吉田 修 議員